

# 平成30年度かしわらっ子はぐくみテスト における結果の概要について

柏原市教育委員会

## 1. 目的

- 児童が自身の学習状況について知ることにより、学習に対しての目標を持ち、その向上にむけて意欲を高める。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 概要

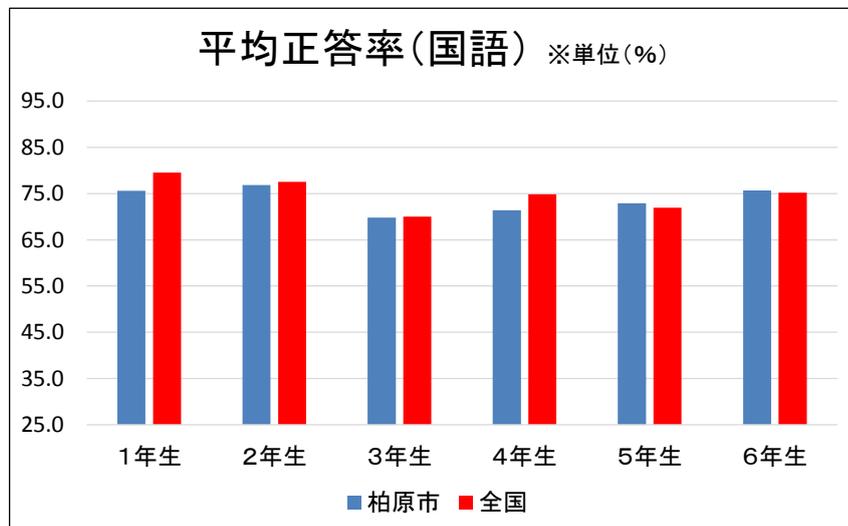
- (1)実施日 平成30年12月13日(木)～14日(金)のいずれか1日
- (2)対象 柏原市立小学校に通う第1学年から第6学年の児童
- (3)内容 ①教科に関する調査(国語、算数)  
②生活習慣や学習に関する質問紙調査(i-Check)

# 平成30年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

## 今年度の結果(国語)

平均正答率		
	柏原市	全国
1年生	75.6	79.6
2年生	76.8	77.5
3年生	69.8	70.0
4年生	71.4	74.8
5年生	72.9	72.0
6年生	75.7	75.2

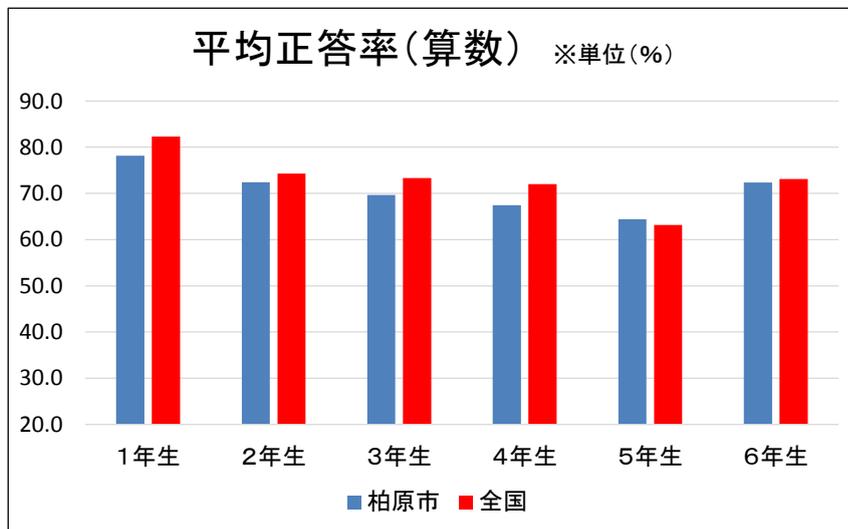
※単位(%)



## 今年度の結果(算数)

平均正答率		
	柏原市	全国
1年生	78.2	82.3
2年生	72.4	74.3
3年生	69.7	73.3
4年生	67.5	72.0
5年生	64.4	63.1
6年生	72.4	73.1

※単位(%)



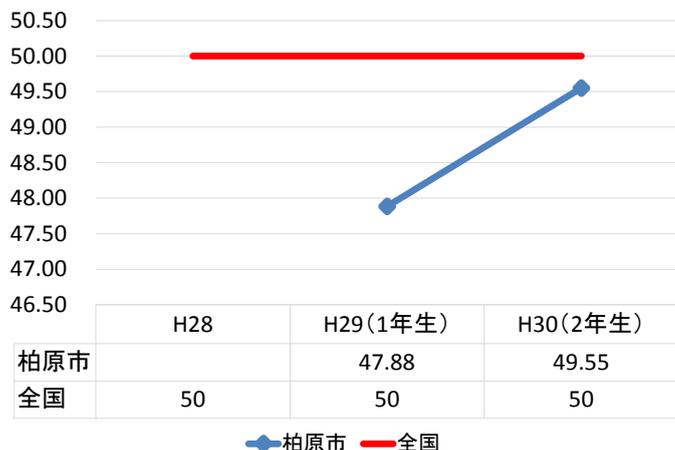
国語は、1年生から4年生において、全国平均をわずかに下回ったが、5年生、6年生では全国平均を上回る結果となった。算数は、1年生から4年生と6年生において、全国平均をわずかに下回ったが、5年生では全国平均を上回る結果となった。

# 平成30年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

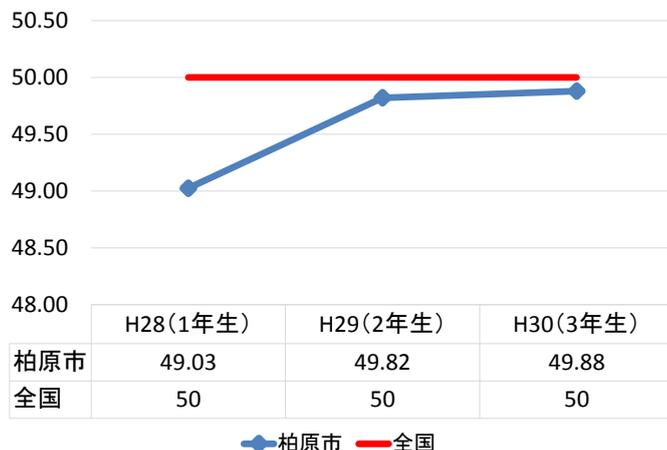
## 同一集団の成長(国語)

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

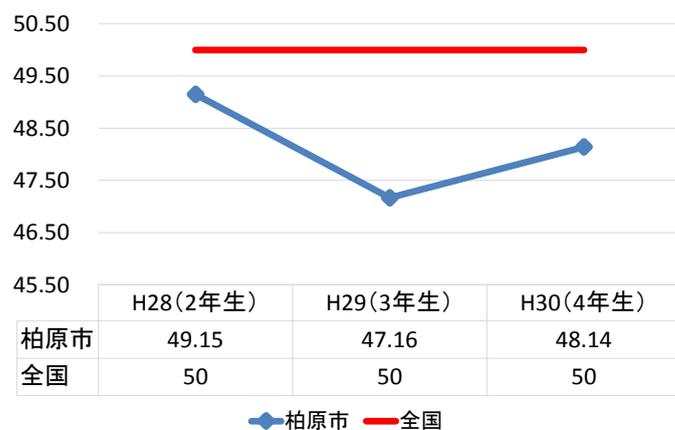
### 経年比較(2年生) 標準スコア



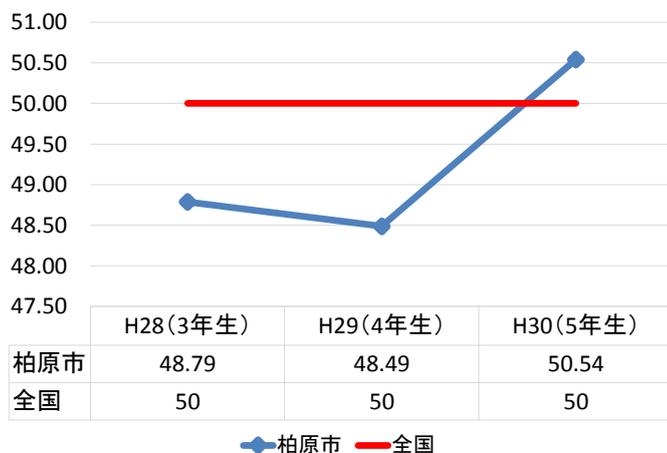
### 経年比較(3年生) 標準スコア



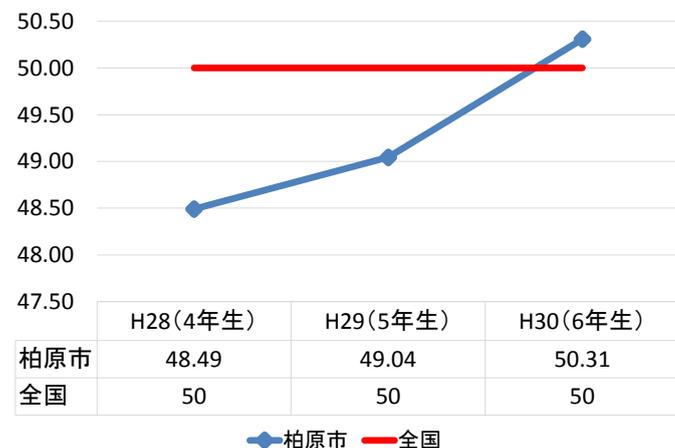
### 経年比較(4年生) 標準スコア



### 経年比較(5年生) 標準スコア



### 経年比較(6年生) 標準スコア



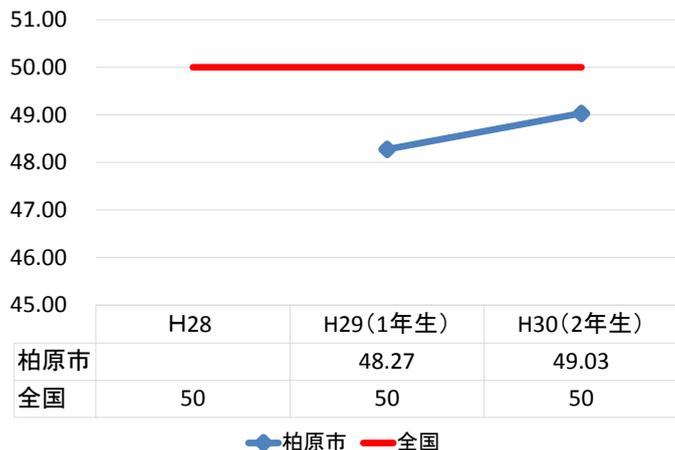
平成28年度の実施初年度以降上昇傾向である。今年度は、5年生と6年生で全国を上回った。2年生と3年生は、全国にわずかにおおよばなかったものの、上昇傾向である。4年生は、昨年度に比べ上昇した。

# 平成30年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

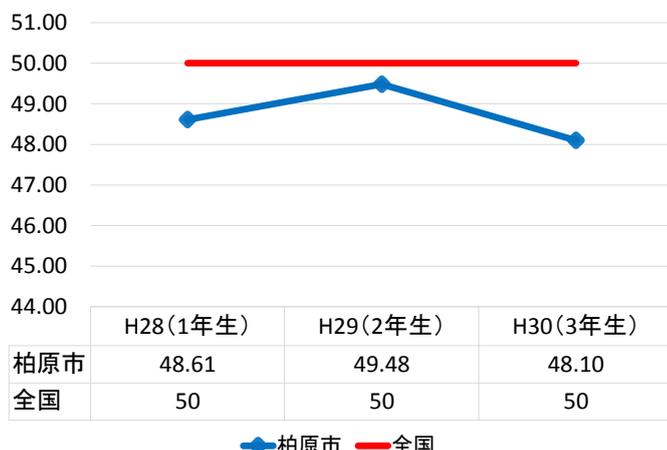
## 同一集団の成長(算数)

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

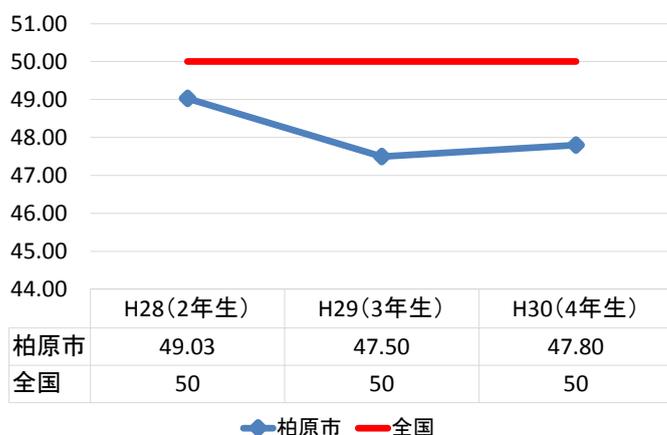
### 経年比較(2年生) 標準スコア



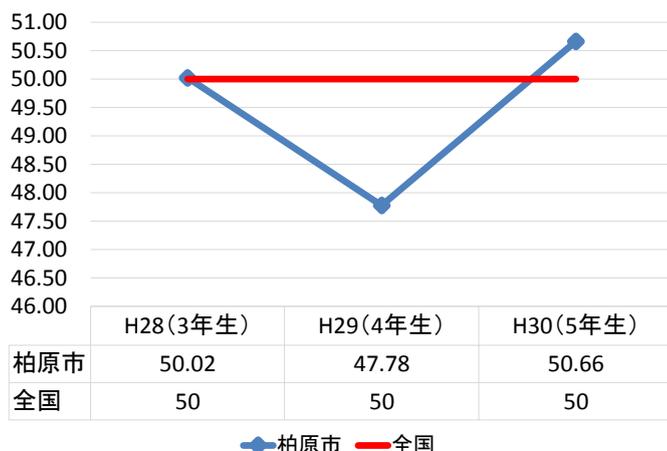
### 経年比較(3年生) 標準スコア



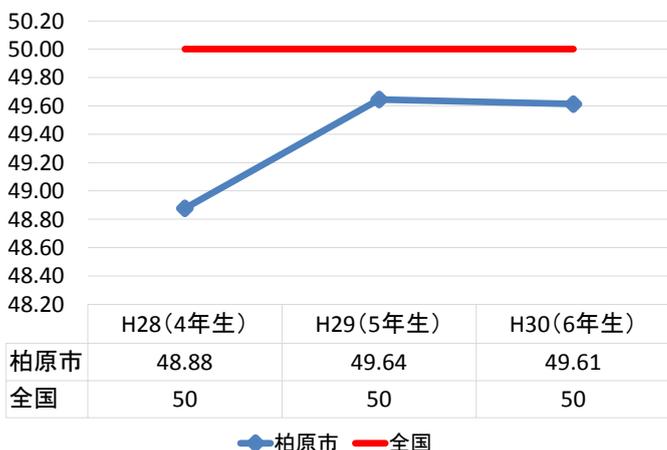
### 経年比較(4年生) 標準スコア



### 経年比較(5年生) 標準スコア



### 経年比較(6年生) 標準スコア

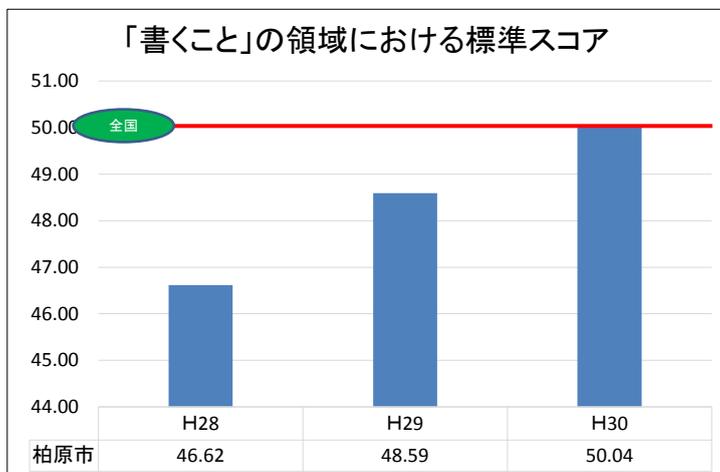


算数は、5年生で全国を上回る結果となった。2年生と4年生は、全国にわずかにおよばなかったものの、昨年度に比べ上昇傾向である。3年生は、昨年度より少し下降し、6年生はほぼ横ばいである。

## 「書く力の育成」(H28～H30)を重点項目とした3年間の検証

### 「書くこと」の領域における標準スコア(全国比)の推移

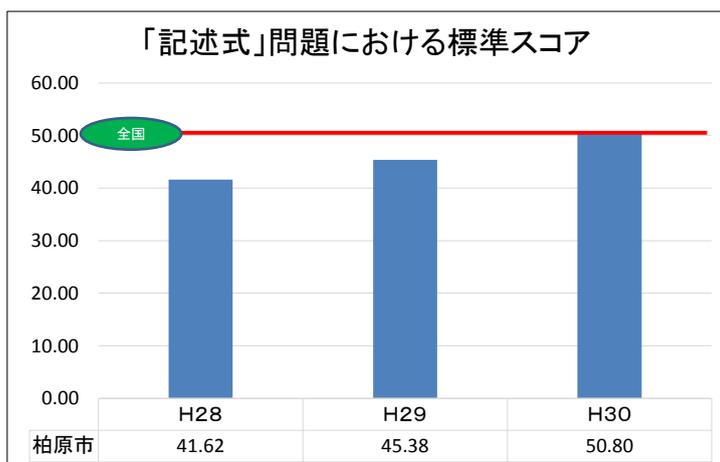
※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの柏原市の正答率を換算した値です。



国語における「書くこと」の領域の正答率(全国比)である。今年度は全国をわずかにではあるが上回る結果となった。平成28年度より、「書く力の育成」を市のテーマと位置付け、各学校において取組みをすすめてきた成果が出ている。

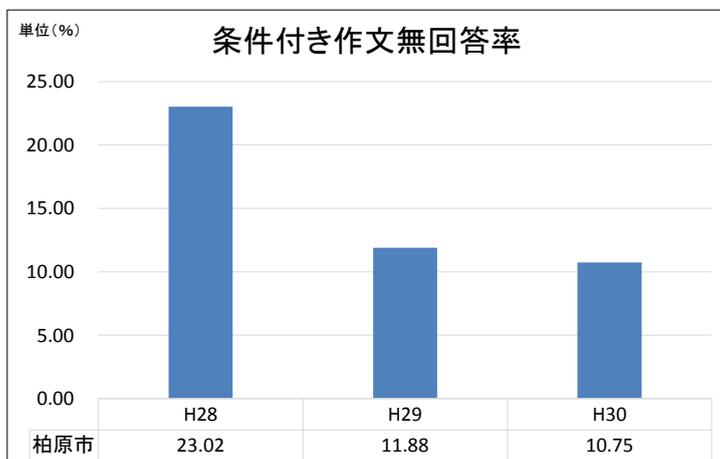
### 「記述式」問題における標準スコア(全国比)の推移

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの柏原市の正答率を換算した値です。



左のグラフは国語と算数における記述式問題だけの正答率である。記述式問題についても上昇傾向であり、今年度は全国をわずかではあるが上回る成果となった。

### 国語における条件付き作文問題無回答率の推移



どの学年でも国語の最終問題は出された条件に従って記述する力を問われる、条件付き作文問題となっており、無回答率が年々下がっていることがわかる。児童の「あきらめずに最後まで問題に向かう力」が育成されていると考えられる。

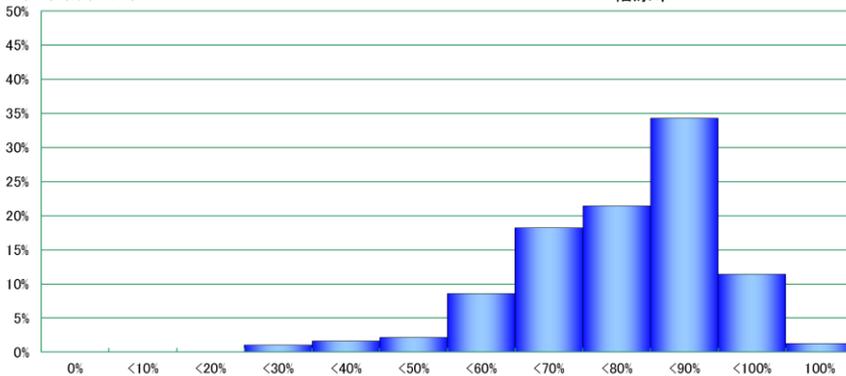
# 小学校国語(1年)

## 問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	75.6	79.6	
	基礎	79.7	83.6	
	活用	59.0	63.5	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	77.8	82.0	
	書くこと	62.5	68.1	
	読むこと	69.2	71.1	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	91.8	96.4	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	68.2	73.3	
	話す・聞く能力	77.8	82.0	
	書く能力	62.0	67.6	
	読む能力	66.3	68.6	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	91.8	96.4	
	選択式	78.4	81.5	
	短答式	93.0	96.5	
	記述式	58.4	64.7	

### ★正答率度数分布

■ 柏原市



○ 正答率50%以下の低位層が少ない。

▼ 全ての項目において全国を下回る結果となった。

▼ 「話すこと・聞くこと」の領域では4.2%、「書くこと」の領域では5.6%、「読むこと」の領域では1.9%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では4.6%全国を下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 国語(1年)問題で課題の見られた設問

りた(ま)つ  
ま。つ  
しわぎ  
たをに  
たをに  
。三(一)  
つお  
なと  
げう  
てと  
、が  
一な  
つげ  
はま  
いし

正答(例)

著作権の関係で表示できません。

本問は、事実が正確に伝わるように書くという「記述力」を問うている。本問に答えるためには、【ゆいかさんがかいたぶんしょう】の点線内の部分から「何をどのように書くか」という情報を読み取ることと【おまつりのようす】の③から「誰が投げたのか、いくつ投げたのか、いつ入れたのか」という情報を読み取り、読み取った情報を設問の要求に適切に反映させるよう整理した上で記述する力が求められる。

本問の目標値が40.0%に対して、正答率は、本市が20.1%、全国が27.2%であった。本市の無回答率は19.9%で情報を読み取り記述することに課題があることがわかる。

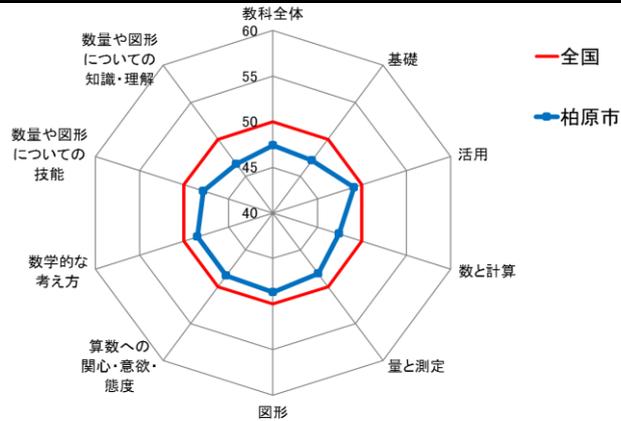
※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

# 小学校算数(1年)

## 問題別調査結果

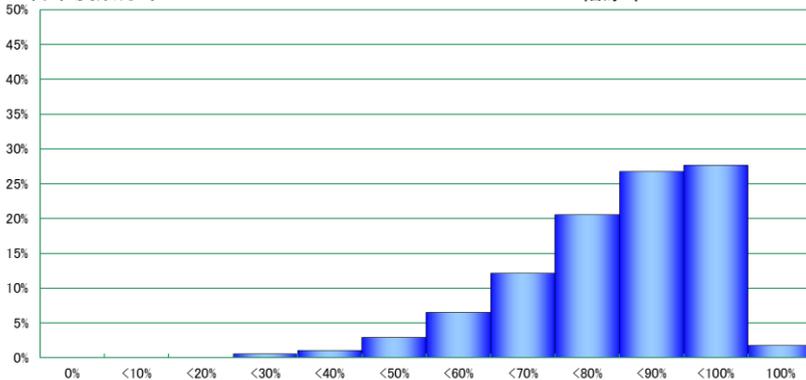
分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	78.2	82.3
	基礎	83.3	87.7
	活用	49.1	51.5
学習指導要領の領域等	数と計算	78.1	82.2
	量と測定	78.9	84.6
	図形	78.4	81.5
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	66.1	69.2
	数学的な考え方	64.5	67.7
	数量や図形についての技能	83.8	87.1
	数量や図形についての知識・理解	76.7	82.9
問題形式	選択式	76.7	79.9
	短答式	79.9	84.2
	記述式	28.7	31.1

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



★正答率度数分布

■ 柏原市



○活用問題では全国正答率にわずかに及ばなかったがおおむね良好な結果となった。

○正答率50%以下の低位層が少ない。

▼全ての項目において全国を下回る結果となった。

▼「数と計算」の領域では4.1%、「量と測定」の領域では5.7%、「図形」の領域では3.1%全国を下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 算数(1年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

本問では、みおさんたちが育てているチューリップには白いチューリップと赤いチューリップの2種類があるという条件が示されている。この点を読み取った上で、解決に必要な「赤いチューリップは、白いチューリップと同じ8本咲いた」ということを読みとり、みおさんの花だんの中の赤いチューリップが引き算で求められることに気づく必要がある。

絵や文で示されている長い問題文から必要な情報を読み取る力が求められている。

本問の目標値が40.0%に対して、正答率は、本市が30.2%、全国が37.2%と全国を7%下回った。必要な情報を読み取る力に課題があることがわかる。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

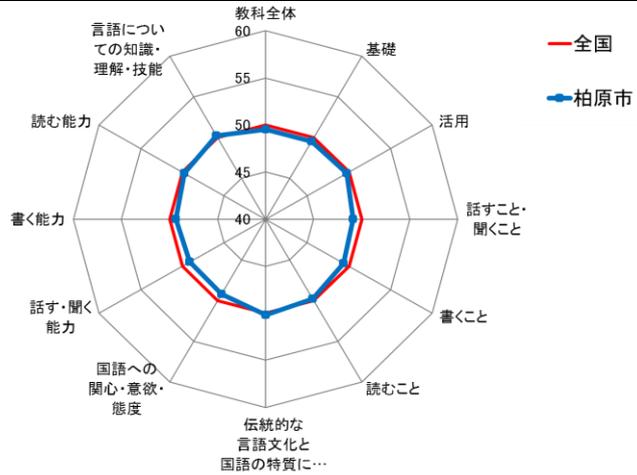
正答・・・3本

# 小学校国語(2年)

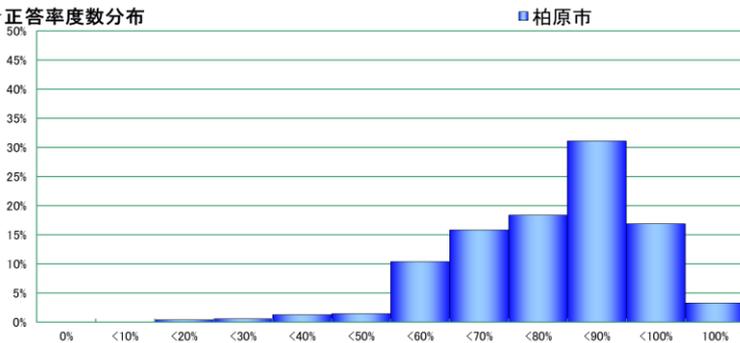
## 問題別調査結果

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	76.8	77.5
	基礎	79.9	80.6
	活用	62.2	62.9
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	81.8	83.9
	書くこと	74.1	75.9
	読むこと	53.8	54.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	92.0	91.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	77.0	78.9
	話す・聞く能力	81.8	83.9
	書く能力	74.1	75.9
	読む能力	56.1	56.7
	言語についての知識・理解・技能	92.0	91.8
問題形式	選択式	68.0	68.6
	短答式	94.1	94.0
	記述式	72.1	74.2

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



★正答率度数分布



○全国の平均正答率にはわずかに及ばなかったもののおおむね良好な状況である。

○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、全国を上回った。

○正答率50%以下の低位層が少ない。

▼「話すこと・聞くこと」の領域では全国を2.1%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

## 国語(2年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

正答・・・4

作品の中での場面の様子を読み取る問題であり、こうした問題を考えるためには、言葉を理解するだけでなく、その場の状況を想像することが大切である。本問では、文章の一部分だけではなく書かれている文章全体を理解しながら読むことを求められている。

本市では1と誤答した児童が25.9%、3と誤答した児童が27.6%いた。解答が分散しており、登場人物の様子や場面の状況を読み取ることに課題があることがわかる。

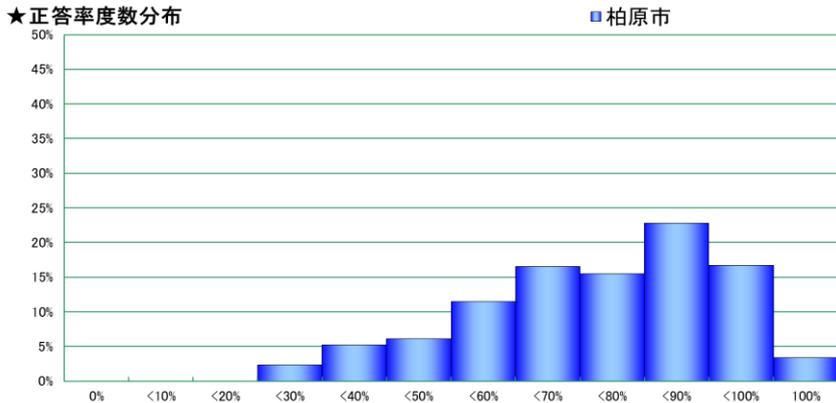
本問の目標値が50.0%に対して、正答率は、本市が26.8%、全国が27.6%であった。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

# 小学校算数(2年)

## 問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	72.4	74.3	
	基礎	75.4	78.1	
	活用	60.1	58.9	
学習指導要領の領域等	数と計算	77.0	78.8	
	量と測定	60.5	62.7	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	63.3	66.3	
	数学的な考え方	64.2	64.1	
	数量や図形についての技能	79.1	81.1	
	数量や図形についての知識・理解	68.6	72.1	
問題形式	選択式	68.3	70.9	
	短答式	75.9	77.7	
	記述式	64.5	57.9	



○全国の平均正答率にはわずかに及ばなかったもののおおむね良好な状況である。

○活用問題では1.2%全国を上回った。

○記述式問題の正答率が64.5%と全国を6.6%上回っており、市全域で取組みをすすめている「書く力の育成」の成果が現れている。

▼「数と計算」の領域では1.8%、「量と測定」の領域では2.2%全国を下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 算数(2年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

(1) 缶に入っているジュースのかさを答える問題である。本市では、1と誤答した児童が14.4%、3と誤答した児童が25.3%いた。1Lの量がどれくらいなのかという量感が育っていないことが課題があることがわかる。

本問の目標値が55.0%に対して、正答率は、本市が45.8%、全国が53.6%と全国を7.8%下回った。

(2) 本市では、1と誤答した児童が37.4%いた。3と正答した児童の34.1%よりも3.3%多い結果となった。単位相互の関係の理解が不十分であることがわかる。

本問の目標値が35.0%に対して、正答率は、本市が34.1%、全国が34.2%だった。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

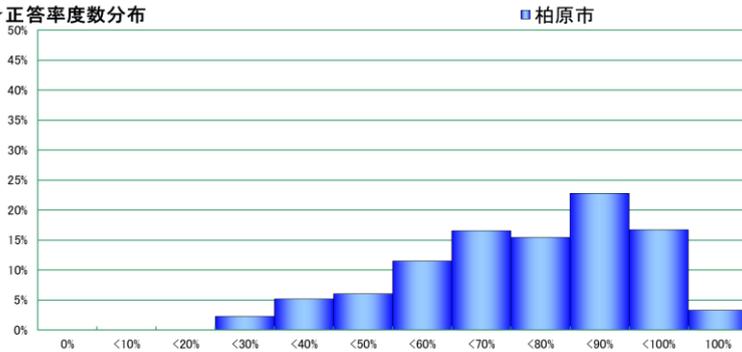
(1) 正答・・・2  
(2) 正答・・・3

# 小学校国語(3年)

## 問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	69.8	70.0	
	基礎	72.0	71.7	
	活用	60.4	62.9	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	89.8	91.9	
	書くこと	53.8	50.9	
	読むこと	71.5	72.4	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.0	73.0	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	68.0	67.2	
	話す・聞く能力	89.8	91.9	
	書く能力	55.5	53.2	
	読む能力	67.4	68.3	
問題形式	選択式	68.5	70.0	
	短答式	80.3	80.6	
	記述式	58.7	56.1	

### ★正答率度数分布



○全国の平均正答率にはわずかに及ばなかったもののおおむね良好な状況である。

○「書くこと」の領域では、2.9%全国を上回り、市全域で取組みをすすめている「書く力の育成」の成果が表れている。

▼「話すこと・聞くこと」の領域では全国を2.1%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 国語(3年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

正答・・・2

本問では、「三度目にぐるんと回してとぼうとすると、ひもが足に引っかかりました。」という記述からその場の状況を想像し、場面の様子を読み取ることが求められている。

本問の目標値が50.0%に対して、正答率は、本市が38.9%、全国が38.5%であった。本市では、3と誤答した児童が36.9%、4と誤答した児童が20.6%いた。書かれている内容を想像しながら正しく読み取る力に課題があることがわかる。

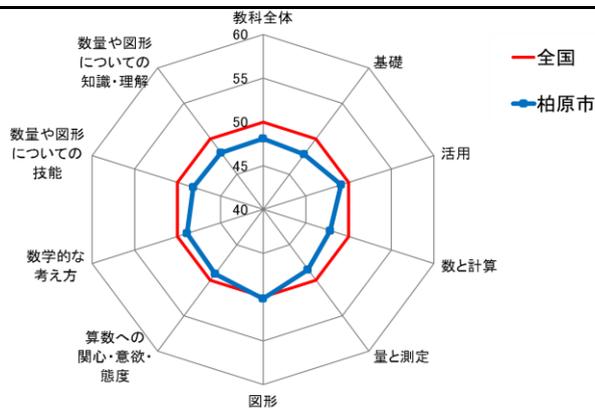
※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

# 小学校算数(3年)

## 問題別調査結果

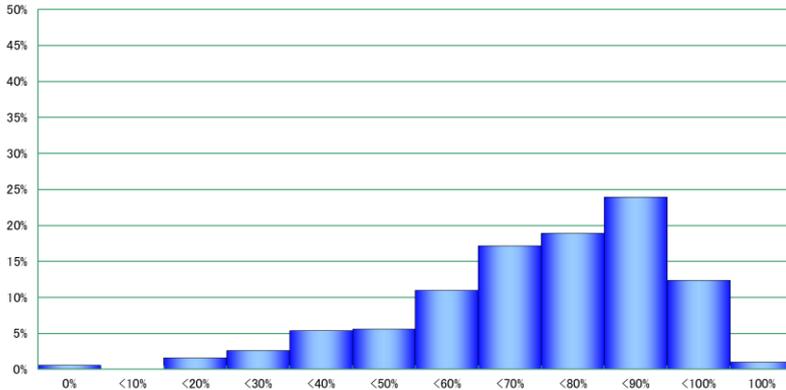
分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	69.7	73.3
	基礎	75.6	79.9
	活用	54.1	56.2
学習指導要領の領域等	数と計算	70.5	74.9
	量と測定	66.4	69.8
	図形	72.2	71.5
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	65.9	68.0
	数学的な考え方	62.1	64.7
	数量や図形についての技能	70.2	73.8
	数量や図形についての知識・理解	72.2	76.6
問題形式	選択式	72.1	74.5
	短答式	70.6	76.4
	記述式	39.5	39.1

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



★正答率度数分布

■柏原市



○「図形」の領域では0.7%全国を上回った。  
 ○記述式問題の正答率が39.5%と全国を0.4%上回っており、市全域で取組みをすすめている「書く力の育成」の成果が現れている。  
 ▼全国の平均正答率を3.6%下回った。  
 ▼「数と計算」の領域では4.4%、「量と測定」の領域では3.4%全国を下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

## 算数(3年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

正答

(略)図の午後0時10分と0時50分に線と予定を表す文字を書き入れる。

本問では、なおとさんとみさきさんの会話の中に時刻に関する情報と時間に関する情報が含まれており、両者を混同しないように整理することが求められる。

本問の目標値が30.0%に対して、正答率は、本市が16.1%、全国が20.8%と全国を4.7%下回った。

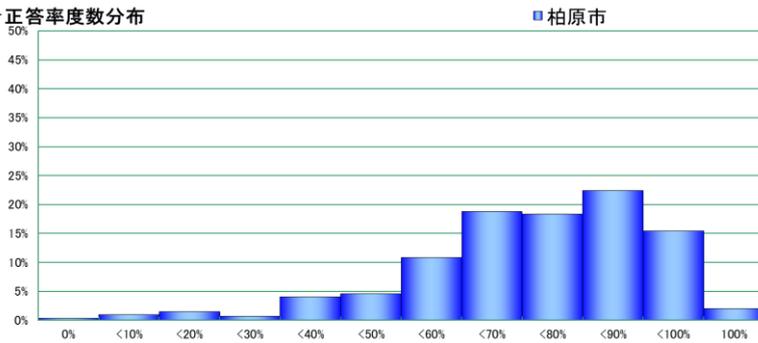
※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

# 小学校国語(4年)

## 問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	71.4	74.8	
	基礎	73.6	77.1	
	活用	61.6	64.3	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	78.4	82.8	
	書くこと	53.5	54.1	
	読むこと	71.1	76.7	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.8	82.2	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	62.1	64.6	
	話す・聞く能力	78.4	82.8	
	書く能力	54.6	55.2	
	読む能力	66.3	71.4	
	言語についての知識・理解・技能	78.0	81.1	
問題形式	選択式	70.9	75.8	
	短答式	81.6	84.2	
	記述式	59.0	60.1	

### ★正答率度数分布



○「書くこと」の領域については、全国にわずかに及ばなかったもののおおむね良好な状況である。

▼全ての項目において全国を下回る結果となった。

▼「話すこと・聞くこと」の領域では4.4%、「読むこと」の領域では5.6%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では3.4%全国を下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 国語(4年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

正答・・・3

本問では、文章の一部だけではなく書かれている文章全体からその場の状況を読み取ることが求められている。

本市では1と誤答した児童が28.3%、4と誤答した児童が18.2%いた。解答が分散しており、登場人物の様子や場面の状況を読み取ることによって課題があることがわかる。

本問の目標値が50.0%に対して、正答率は、本市が38.4%、全国が47.5%で、9.1%全国を下回った。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

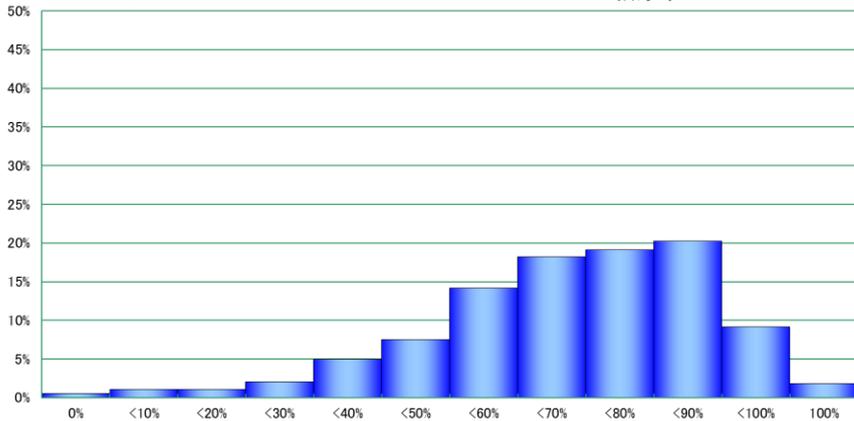
# 小学校算数(4年)

## 問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
全体		67.5	72.0	
基礎		71.6	76.1	
活用		55.1	59.7	
学習指導要領の領域等	数と計算	72.5	74.1	
	量と測定	72.5	79.6	
	図形	48.9	60.3	
	数量関係	62.9	68.7	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	60.0	65.1	
	数学的な考え方	61.3	66.1	
	数量や図形についての技能	69.9	73.5	
	数量や図形についての知識・理解	65.7	71.9	
	問題形式			
	選択式	66.0	71.9	
	短答式	73.8	77.1	
	記述式	38.1	38.2	

### ★正答率度数分布

■ 柏原市



○記述式問題の正答率が38.1%と全国の平均正答率には0.1%及ばなかったもののほぼ同程度であり、市全域で取り組みをすすめている「書く力の育成」の成果が現れている。

▼全ての項目において全国を下回る結果となった。

▼「量と測定」の領域では7.1%、「図形」の領域では11.4%、「数量関係」の領域では5.8%、全国を下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

## 算数(4年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

本問では、計算のきまりや四則計算の意味を問う問題である。問題場面から立式するだけでなく、式に合った問題場面を考える力が求められる。

本問の目標値が65.0%に対して、正答率は、本市が48.9%、全国が61.9%と全国を13%下回った。

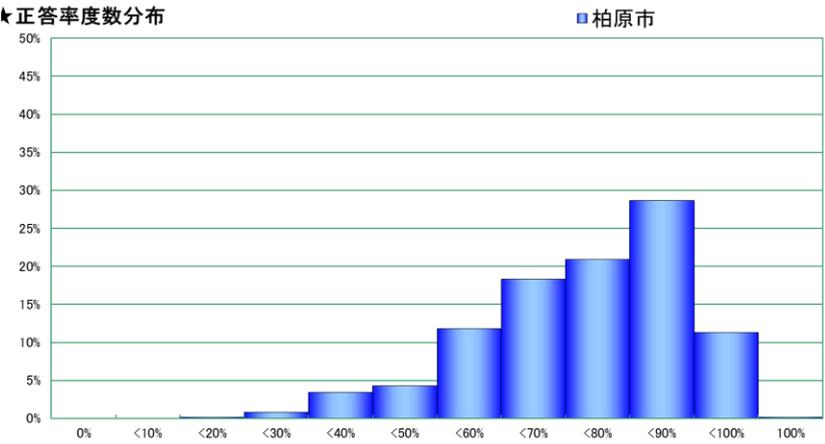
※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

正答・・・3

# 小学校国語(5年)

## 問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	72.9	72.0	
	基礎	75.9	74.9	
	活用	58.9	58.3	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	72.7	73.3	
	書くこと	73.7	68.9	
	読むこと	71.4	72.1	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.4	73.1	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	72.5	70.4	
	話す・聞く能力	72.7	73.3	
	書く能力	70.4	66.1	
	読む能力	70.3	70.7	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	73.7	73.0	
	選択式	72.1	72.6	
	短答式	77.5	76.8	
	記述式	67.7	63.3	



○ 全国の平均正答率を上回り良好な状況である。

○ 「書くこと」の領域では、全国を4.8%上回り、市全域で取組みをすすめている「書く力の育成」の成果が現れている。

▼ 「話すこと・聞くこと」の領域では全国を0.6%、「読むこと」の領域では0.7%下回っており、他の領域に比べると若干課題があることがわかった。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 国語(5年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

漢字の知識を問う問題である。正答の「季節」は、4年生で学習する文字であり、下学年での既習事項を復習し、定着をはかる必要がある。

本問の目標値が65.0%に対して、正答率は、本市が61.2%、全国が68.1%で、6.9%全国を下回った。

本市の漢字(書き取り)の正答率は、①61.2%②63.8%③49.4%④73.2%であった。

※ 目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

正答 ①季節 ②観察 ③旗 ④争う

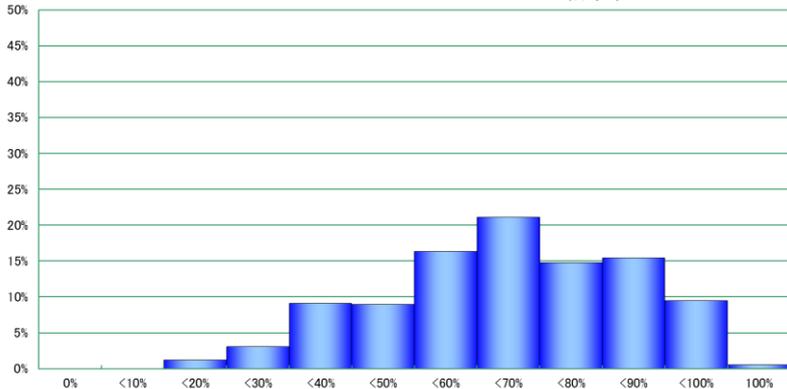
# 小学校算数(5年)

## 問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
全体		64.4	63.1	
基礎		70.2	69.9	
活用		40.7	35.3	
学習指導要領の領域等	数と計算	66.3	65.5	
	量と測定	55.1	51.1	
	図形	74.2	75.2	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	48.2	42.9	
	数学的な考え方	49.4	46.6	
	数量や図形についての技能	73.1	72.8	
	数量や図形についての知識・理解	64.4	63.2	
問題形式	選択式	62.6	61.5	
	短答式	72.4	71.2	
	記述式	27.4	23.3	

★正答率度数分布

■ 柏原市



○ 全国の平均正答率を上回り良好な状況である。

○ 記述式問題の正答率が27.4%と全国の平均正答率の23.3%を4.1%上回っており、市全域で取り組みをすすめている「書く力の育成」の成果が現れている。

▼ 「図形」の領域では全国を1.0%下回っており、他の領域に比べると若干課題があることがわかった。

▼ 正答率60%～70%の中位層が一番多くなっており、上位層の増加が課題である。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 算数(5年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

式に合った問題場面を問う問題である。この問題形式は4年生でも課題が見られ、下学年から式と問題場面を関連づけながら考える力の育成が必要であることがわかる。除数や被除数が少数になると、乗法なのか除法なのか、どちらが被除法なのかわかりにくくなる。問題場面を数直線に表し、数値の関係を明確にして演算決定をする力が必要である。

本問の目標値が25.0%に対して、正答率は、本市が25.6%、全国が23.0%と目標値・全国を上回ったが、2と誤答した児童が49.3%おり、小数の乗法・除法の理解について課題があることがわかった。

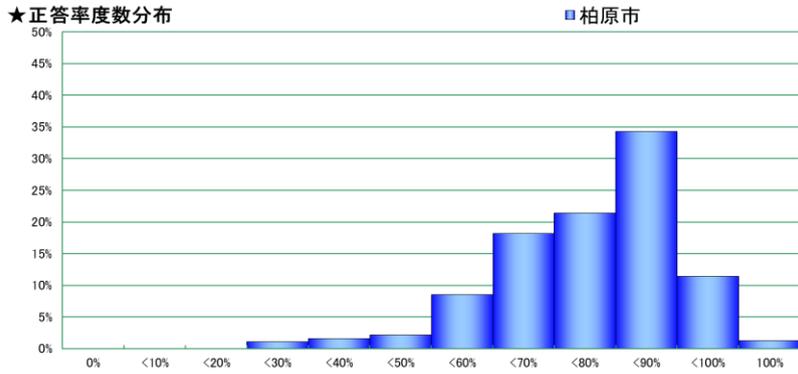
※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

正答・・・4

# 小学校国語(6年)

## 問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	75.7	75.2	
	基礎	80.6	80.0	
	活用	52.8	52.9	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	71.6	74.3	
	書くこと	75.1	74.0	
	読むこと	82.6	82.7	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.9	71.5	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	72.5	73.2	
	話す・聞く能力	71.6	74.3	
	書く能力	71.9	71.1	
	読む能力	79.9	79.9	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	73.4	71.9	
	選択式	75.1	75.0	
	短答式	81.5	79.9	
	記述式	69.2	69.1	



○全国の平均正答率と上回り良好な状況である。

○「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、全国を上回った。

▼「話すこと・聞くこと」の領域では全国を2.7%下回っており、他の領域に比べると若干課題があることがわかった。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 国語(6年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

- ① 正答・・・3
- ② 正答・・・1

本問は、正しい敬語を理解しているかを問う問題である。敬語については、特に動作の主体によって、尊敬語を使うのか、謙譲語を使うのか判断する必要がある。敬語は、知識として知っているだけではなく、実際の生活の中で使うことができることが大切である。生活の中で正しい敬語を使う力を身に付ける必要がある。

問題②の目標値が30.0%に対して、正答率は、本市が14.8%、全国が14.4%で、6.9%全国を上回ったが、3と誤答した児童が59.5%おり、敬語の理解について課題があることがわかった。

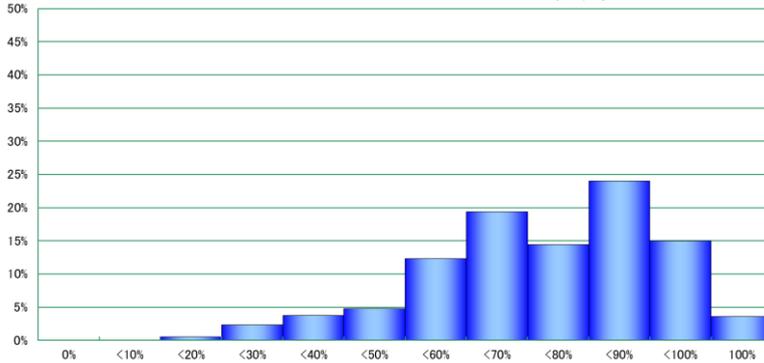
※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

# 小学校算数(6年)

## 問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	72.4	73.1	
	基礎	75.5	76.3	
	活用	56.8	57.3	
学習指導要領の領域等	数と計算	75.5	76.7	
	量と測定	69.2	68.5	
	図形	74.4	74.7	
	数量関係	64.5	66.2	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	57.2	58.9	
	数量的な考え方	61.4	61.6	
	数量や図形についての技能	78.1	79.3	
	数量や図形についての知識・理解	72.0	71.8	
問題形式	選択式	66.6	66.6	
	短答式	81.4	82.9	
	記述式	45.3	45.4	

### ★正答率度数分布



○全国の平均正答率とほぼ同程度で良好な状況である。

○「量と測定」の領域では全国を0.7%上回った。

▼「数量関係」の領域では全国を1.7%下回っており、他の領域に比べると若干課題があることがわかった。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 算数(6年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

(1) 比の理解を問う問題である。本市では、1と誤答した児童が50.4%いた。問題文の比が分数であったため混乱したと考えられる。比の理解について課題があることがわかる。

本問の目標値が30.0%に対して、正答率は、本市が26.2%、全国が26.1%だった。

(2) 比を用いて数量を求める問題である。実際の生活の中でよく活用される考え方である。生活の中で使える力として育成する必要がある。

本問の目標値が75.0%に対して、正答率は、本市が60.9%、全国が75.3%だった。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

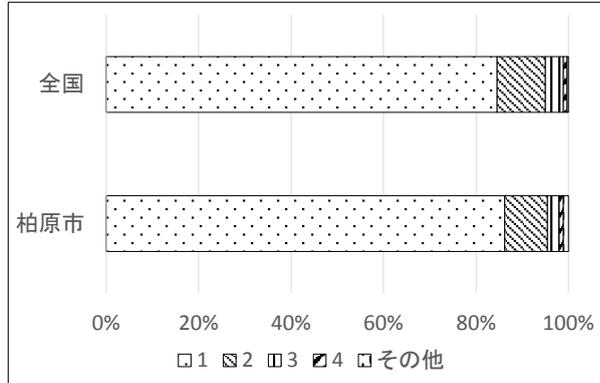
- (1) 正答・・・2
- (2) 正答・・・75mL

生活習慣

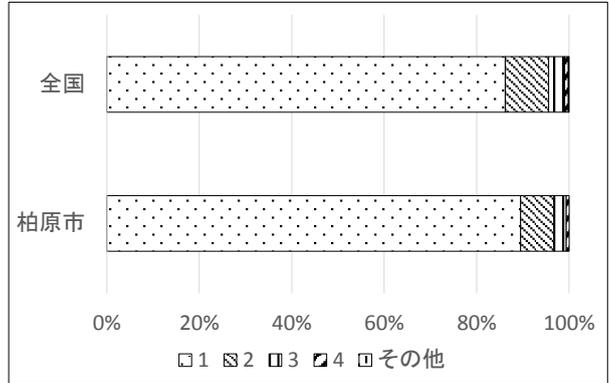
朝食を毎日食べていますか。

1…毎日食べる 2…だいたい食べる 3…あまり食べない 4…食べない

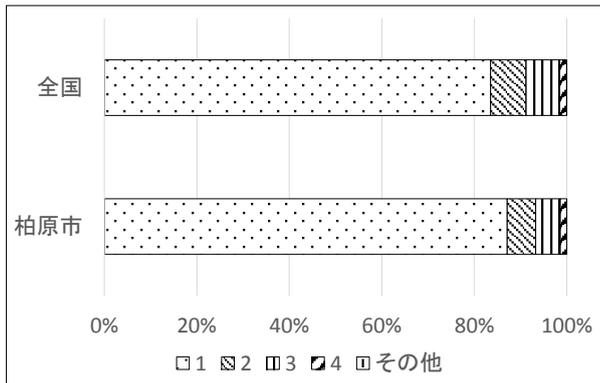
1年



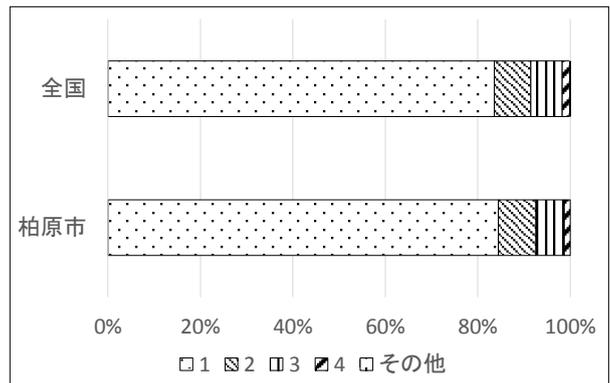
2年



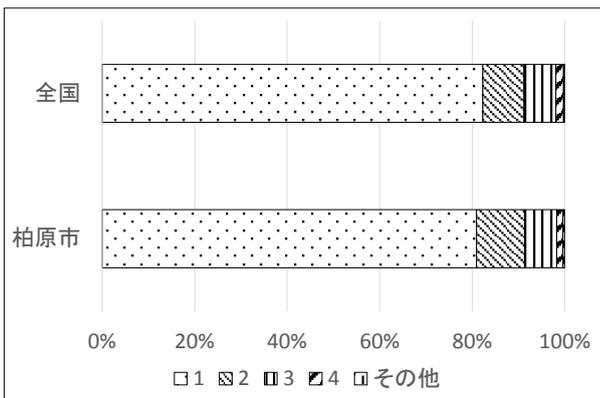
3年



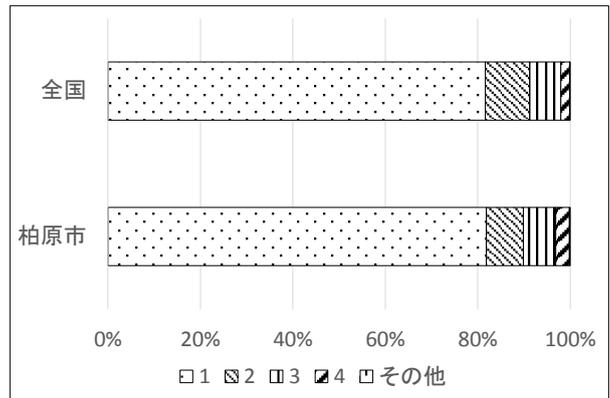
4年



5年



6年



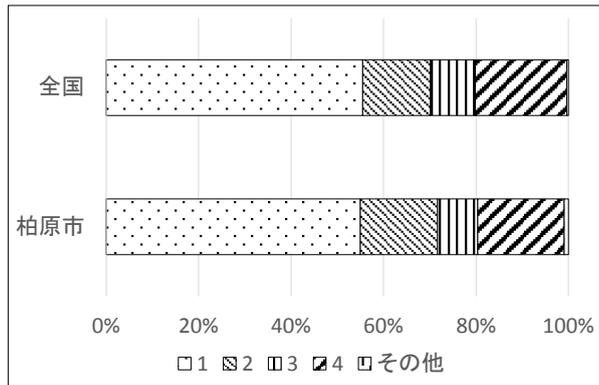
「朝食を毎日食べている」「だいたい食べている」と回答している児童の割合は、5、6年生でわずかに全国を下回るが、全体的に良い傾向である。

## 生活習慣

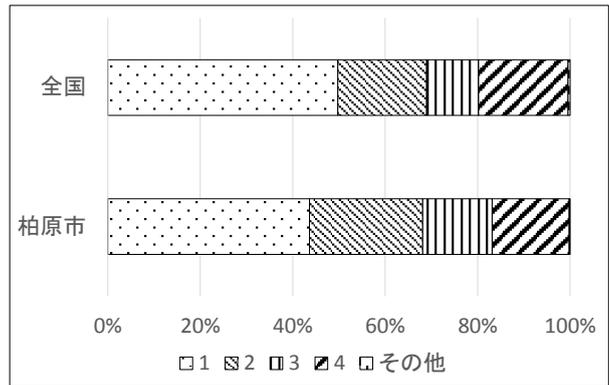
一日の遊び時間はだいたいこれくらいと決めていますか。  
(テレビ、DVD、ゲーム、インターネットの時間も含まれます。)

1…きめている 2…だいたいきめている 3…あまりきめていない 4…きめていない

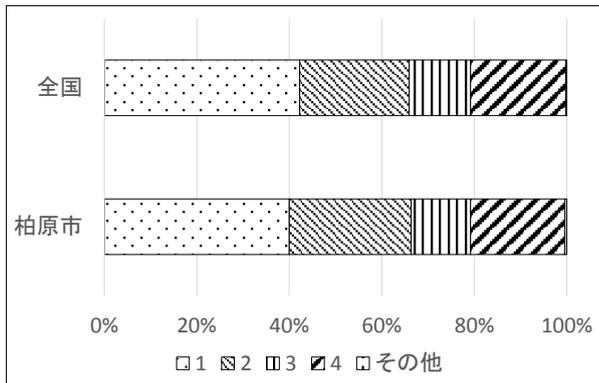
1年



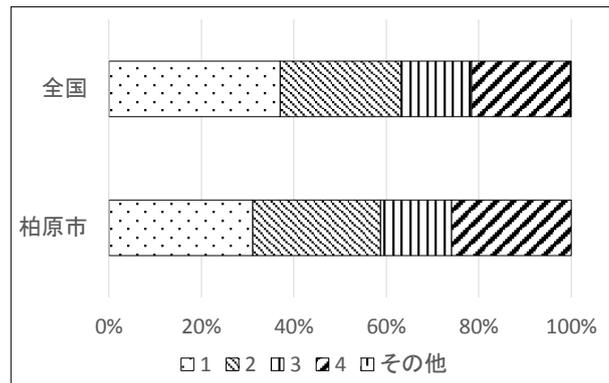
2年



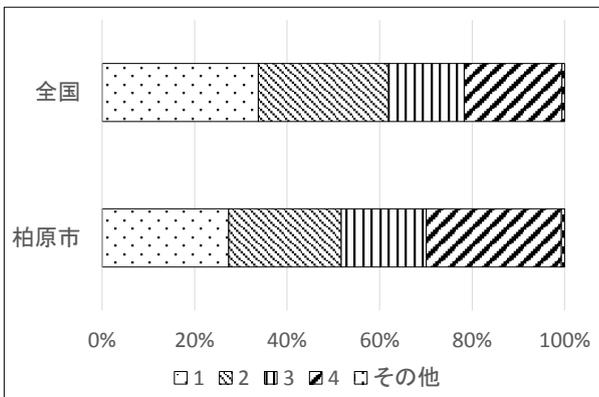
3年



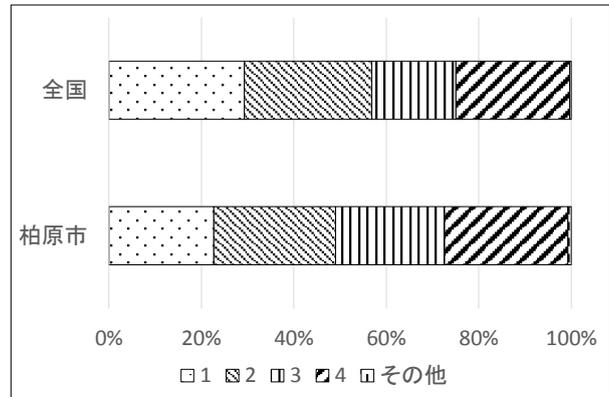
4年



5年



6年



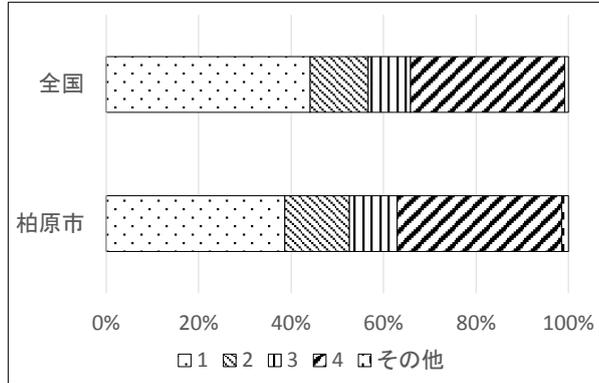
「一日の遊び時間をきめている」「だいたいきめている」と回答している児童の割合は、1～3学年は全国と比較して低くないものの、4～6年生は全国を下回っている。

## 学習習慣

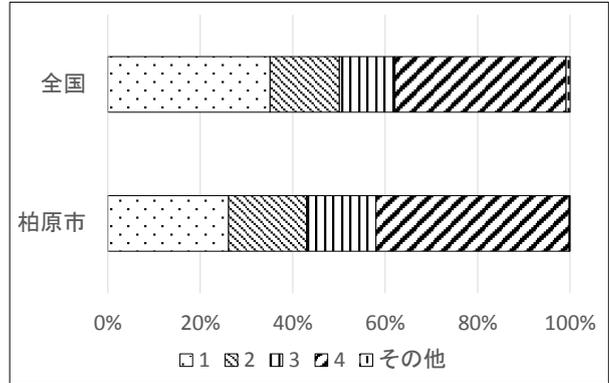
おうちでのべんきょうじかんをきめていますか。

1…きめている 2…だいたいきめている 3…あまりきめていない 4…きめていない

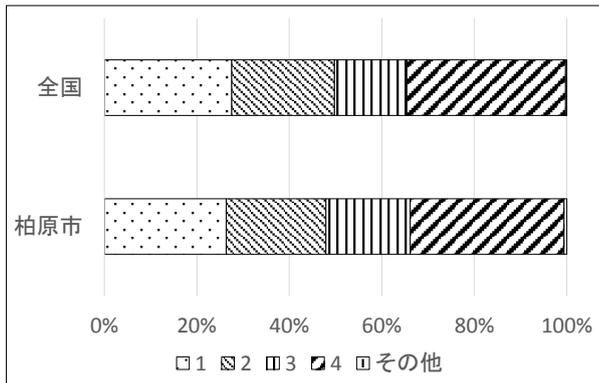
1年



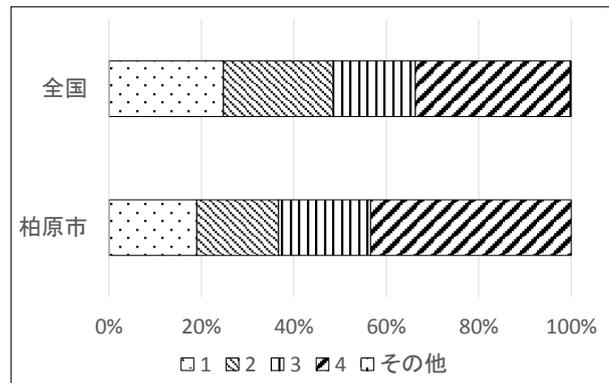
2年



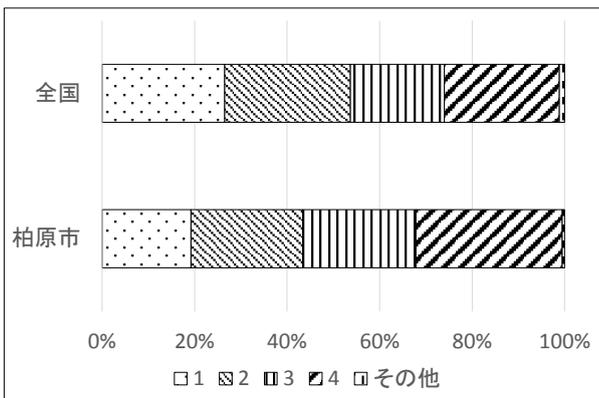
3年



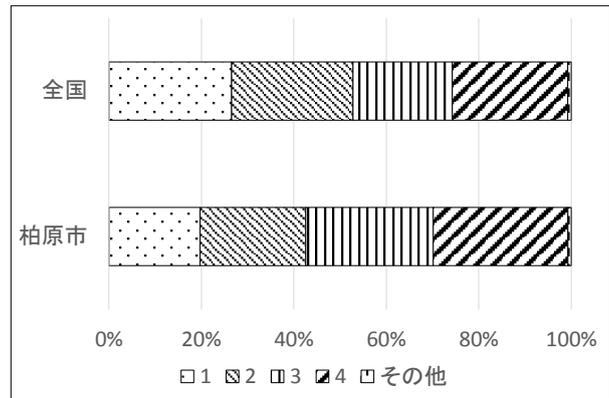
4年



5年



6年



「きめている」「だいたいきめている」と回答している児童の割合は、すべての学年で全国を下回っている。特に高学年は「きめている」「だいたいきめている」あわせて、10%以上下回っており(5・6年生とも-10.4%)、学習習慣の定着に課題があることがわかった。

## ○教育委員会としての今後の取組み

- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業をとおして、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できるようにする
- ・引き続き「書く力の育成」をねらった具体的な施策の提案及び実施をしていく
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく
- ・スマートフォンやSNSについて安全な使い方やリスクを学べる研修を実施する

## ○学校における今後の取組み

- ・教員全員が指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる
- ・教科横断的に「書く」機会を多く設け、組織的に「書く活動」の充実を図る
- ・道徳教育や人権教育を中心に、自他ともに大切にし、思いやりや優しさが育まれる心の教育を充実させる
- ・各校区で幼小中の教員や子どもたちの交流を充実させ、11年間の連続した視点での指導を確立させる

## ○家庭にお願いすること

学習能力の向上につなげる

### ① 基本的な生活習慣の定着

- ・決まった時間に寝起きしてリズムを意図的につくる
- ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
- ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる

### ② 家庭学習習慣の定着

- ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める  
※中学第1学年生徒は、7年生とする
- ・毎日の宿題ができているかを確認する

### ③ スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り

- ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について 家庭内でよく話し合い、ルールを決めて、守らせるよう働きかける
- ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する